



**profile**

やまがたゆりこ / 大阪大学薬学部卒業、同大学院薬学研究科(修士・博士課程)修了。同大助手を経て1998年に助教授。2001年に熊本大学大学院薬学研究科教授、薬学教育部副教育部長を経て2013年より女性初の熊本大学副学長を務める。現在、男女共同参画推進室室長も兼任。大学院生の時から夫の協力を得ながら3人の子育てと仕事の両立に奮闘。専門はタンパク質の立体構造研究。熊本大学に転勤後は単身赴任中。

Role Model

01

分子・原子のレベルで見ると物質の世界である生命現象が“面白い!”

山縣ゆり子 熊本大学大学院生命科学研究所教授、熊本大学副学長、日本学会会議連携会員

薬学部  
修士課程  
博士課程  
就職浪人  
大学技官  
大学教員

出張先でのショッピングは忙しいときのちょっとした気分転換です!

One day

7:00	起床→朝食
8:40	大学へ(600歩5分の距離)
8:45	就業
	講義・研究指導・論文・会議 (出張もかなり多い)
19:00	夕食は学内で食べる
20:00	終業
23:00	自宅に近いのは便利(?)
	眠くなったら帰る→就寝



Yuriko YAMAGATA

薬学系(構造生物学)

一生の仕事を見つけ、  
続けていくことの大事さ

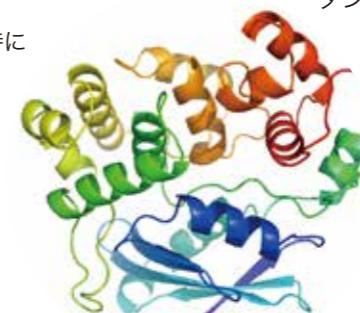
友人の姉が薬学部出身の研究者だったので、「自分の仕事を持ち、仕事を続けていく」という女性の生き方を間近で見えていました。そのような先輩たちの影響を受け、薬学部に進むことを決意。また大学時代は、女性教員が産休明けに保育所に子どもを預けて大学に復帰されたのを目の当たりにし、「そんなことが可能なんだ!」と驚きました。家庭を持ちながら、生き甲斐となる仕事をやり続ける。そんな女性の先輩たちを見て、本気で研究者を目指すようになりました。

私は修士1年の時に学生結婚をしました。当時は男性でもオーバードクターがたくさん存在した時代。私も就職が決まらないまま博士課程を修了し、三人の子育てをしながら研究室に残りました。研究室の理解と協力、そして夫との家事や育児の分担でなんとか研究を続けることができました。

6年後、運良く大阪大学薬学部の助手に。この時、ポストに恵まれなかった女性研究者や周囲の働く女性たちから「研究できるポジションに就いたのだからいい仕事をしてね」と激励されたことが、これまで頑張ってきた理由となっています。

次々に新しい発見があり、  
飽きることのない世界

専門は『構造生物学』。助手時代に研究テーマを決めることができました。私は、生命活動の担い手であるタンパク質が遺伝子である



DNA修復酵素AlkAの立体構造の模式図 (Yamagata et al., Cell, 1996) 私のキャリアの基礎となった仕事

DNAに作用する仕組みに興味を持っていますので、そのような働きをするタンパク質(DNA修復酵素など)の結晶を作り、その結晶にX線を当てて、タンパク質の立体構造を決めています。これらの研究は、タンパク質に働く薬の設計にも大変有効なのです。生物の生命現象も分子・原子のレベル



で見ると物質の世界。これらを明らかにすることに魅力を感じて、30年以上同じ方法で調べ、研究を続けていますが、面白

さは増していくばかりです。タンパク質の立体構造の美しさに魅せられ、またその動きの多様さや巧妙さ、生命誕生から40億年かけて進化してきた神秘に思いを馳せています。

学生たちに伝えたいことは「一生懸命考えること、やること。そして本当にやりたいことを見つけて続けること」。でも“やり直し”もあります。人生は常に学び。しなやかに強く学んでほしいと願います。



研究室のスタッフ、学生たちと